

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(理科) 科目：(化学基礎) 対象：(第 3 学年1組)

科目担当者：(1組:荻原 慶成 (印))

教科・科目の 指導目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	高校入試における化学分野の正答率 1. 酸・アルカリイオン 22.9% 2. 実験の方法と pH 28.6% 3. 化学変化と原子モデル 11.4% 4. グラフの読み取り 17.1% 5. 気体の発生量算出 2.9%	1 専門用語の意味を、単位も踏まえて理解させる。また、粒子の数(mol)や濃度など計算で求める力を身につけさせる。粒子の数を視覚的にイメージする練習を積ませる。 2 自然現象に対する興味・関心を育てる。 3 実験結果について考えたことを言葉や文字で表現できるようにする。実験の条件や設定を整理し、結果を比較して考察する力を身につけさせる。 4 元素記号や化学反応式などの知識の定着を確実に行う。 5 化学に苦手意識を持つ生徒が多いので計算より実物提示やICTでの動画の視聴を通して理解させる	1 単元終了時やポイントごとに小テストを行い、知識の定着を図る。また、協働的な活動を多く取り入れ、教え合うことで基礎学力の定着を図る。 2 生徒実験は基本的に個人または2人1組で行なうなど少人数で行い、各生徒が実験操作に関与できるようにする。 3 生徒実験後はレポートを課し、実験結果に対する考察を促す。実験内容など、文章で示したものから情報を仕入れる訓練を行う。 4 小テストを各単元毎に実施する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			